# 幼兒の生活に於ける繪本

立教大學心理學研究室　築添正二

立教大學心理學研究室では、こゝ二年來子供の生活形式の中で最も重要な「遊戯」を研究主題として、既に中島教授、出口氏らが各々研究の結果を發表されてをります。私のこの繪本に就いての若干の考察、實驗も、その綜括的研究の一部分としてなされたもので、今後も更に發展させたいと考へてをります。

幼兒の生活は遊戯の生活であると云ひ切つてもよい程大切な、「遊び」の問題についても、最近に至つて、初めて實驗的な研究が試みらる樣になりました。然し、その大切な遊戯活動の重要な一部でもあり、又教育的にも、情藻的にも見逃すことの許されない繪本については、幼兒の生活にふみ入つて、實驗的なまとまつた研究が、なされて居りません。繪本が、幼兒の生活に於て果す教科書的役割からの教育的な方面への考察は、やゝ整へられてゐる樣ではありますが、幼兒の生活面に素直に正しく觸れた繪本――幼兒が本當に喜ぶ繪本――については、良い研究が進められてゐない樣です。

「この樣な諸條件を備へた繪本が、幼兒にとつて一番ぴつたりした繪本なのであらうか？」

この疑問を解決する、多くの良い研究が今後續々生れることを期待したいのですが、これは更に少年期、青年期の「讀みもの」の發達的研究の基礎をなすものとして緊要なものと信じます。

現在教育的にも、藝術的にもよく檢討され洗練され、又幼兒の生活とも正しく觸れた繪本が市場に若干はあり、それらは優れた藝術的直觀によつて幼兒の生活、幼兒の興味の對象を描き出す童畫家、又童謠、童話の作者によつて形作られてゐます。然しこれらの繪本の內容が必ずしも幼兒の興味を惹かず、反つて緣日などで廉く賣られるあくどい、內容の下品なものが喜ばれると云ふ樣な場合があります。これは一面、所謂高級な繪本が値段や、內容が親達の趣味、理解に適合しないために手輕に買はれず子供達に與

へられない――と云つた樣な所にも問題はあるのかも知れません。

さもあれこゝでは前述の疑問を滿す一過程として現在の繪本の持つ內容の分析、幼兒の繪本を見る態度の觀察から、若干の結果を導き出さうと試みてみました。

幼兒には幼兒の獨自の世界があつて、その世界は幼兒の性格の特徵を明かにして初めて確實なその行動、生活を把握出來るのであります。幼兒は「幼兒のこゝろ」に映る外の世界によつて、その生活を描き出します。然しこれが飽くまで現實の世界を手がかりとして成立つてゐるものであることは申すまでもありません。卽ち現實に觸れて初めて幼兒の生活は伸展し、新鮮な驚きに眼覺されつゝその經驗世界は擴がつてゆきます。これが大體三、四歲から六、七歲にかけて、想像の働きが加はり段々活潑になつて來ます。そうすると、それ迄は唯受け容れるばかりであつた幼兒のこゝろは、一段飛躍して、遊戲する、繪本を見る、お話を聽く、などの行動が積極的に轉換して、その想像欲望、知的欲望を追ひもとめ、滿してゆかうとします。

子供の世界觀について、又その他の兒童心理の業績に大きなものを與へつゝあるピアヂェによりますと、「幼兒は働く必要がなく、生活の必要は兩親によつて與へられ、唯、彼らは遊んでをればいゝ。從つて、社會について考へることは稀で、そのこゝろは想像の赴くまゝに漾ふのみであつて、彼らのこゝろが現實に對して、何らかの事情で結ばれぬ限り、その想像は益々現實から離れて、獨自の想像生活が創られてゆく」のであります。

この樣な幼兒の生活に對して、繪本が果しつゝあると考へられてゐる役目は、從來、教育的に重く見られ、前述しました樣に教科書的のものゝ樣に考へられてゐる樣であります。卽ち、一、漾ひ、擴がる想像欲望を充す半面に、二、動搖の甚しい幼兒の、經驗や知識に、現實に卽した基礎となる確實性を與へ、三、現實の多くの事物の正しい觀察を容易に導き、四、實物を見られないものでも、見ると同樣な效果を與へる等の諸點であります。

繪は現實の事物を形の上に現したものでありますから、それを見ることによつて、幼兒は未知の世界、自然、社會、歷史などの空間、時間的の事柄を「學ぶ」と考へられます。又同時に、いろ、かたち、（全體としての、部分としての）現象、などの美しさを「感ずる」ことによつて、幼兒の性格陶冶の上に最も必要な潤ひある情緖性を養ひ培つてゐることも重要な半面でありませう。

幼兒が、見るもの、きくもの、などから享ける印象は、その經驗が稚なければ稚い程鮮かで、初めて海を見た原始人の驚きのそれの樣に、生々した刺戟、烈しい興味を喚び

覺し、その美的方面は、幼兒の情緒性の奥深くに根ざし、一つ一つが生活推進の力と化するのであります。

さて、繪本やお話と、先に申しました幼兒の想像生活との關係はどんなものでせうか。繪本を見る、お話を聽く、讀む等の事柄がしば〳〵自分の生活に溶けこみ、その畫中、物語中の人物その他の行動、性格、事件などゝ自分との間に隔りがなくなり、自分がその中の人物となり、事件、事物も關係が現實になり切つてしまふことは御承知のことでせう。ある繪の一場面を見たり、お話で聞くとその樣な場所、その樣な人物が生きてゐることを信じ、動物が人間と話し合つてゐる、等の事柄も何の矛盾もなくうけ容れられるのであります。(これは玩具に對しても同樣の事が云へます。幼兒にとつて人形が自分と同じ感覺、感情をもつものとして、これを愛し、取扱ふのであります)。

この樣に繪本やお話は幼兒の想像生活と自然な順應を以て、大人から見て矛盾した樣な事柄や關係も、幼兒の獨自の生活に於ては、素直にのべ展げられてゆくのであります。

次に簡單に、嬰兒期から、幼兒後期(學齡前)へかけての特徵と發展を繪とお話に、關聯づけて考へてみませう。

一、嬰兒期。母親の懷に眠る、嬰兒の弱々しい感覺を通じて未分化の稚い、精神にも、現實が經驗として徐々にその翳を落し初めます。片言で喋る、赤坊のお話(?)や、歌(?)の如きものも、心を留めてきくと、彼らが話をうけ容れる能力の萠しを見出すことが出來ます。この時期に於て、繪は大體生後四ヶ月頃から識別される樣であります。心理學者たちによつて種々異つた觀察がなされてをりますが、壁に掲げられた繪、ポスターの類の繪を見て喜びを示す樣になるのは大體四ヶ月から六ヶ月の頃と一致してゐます。波多野いそ子氏は、その長男が、「生後百六十日目(五ヶ月十日)に週間朝日の表紙に描かれた女の繪を見て喜び、その陰にかくれて聲を出すと、その表紙の女の人が呼んだものと思つてかゥーゥーと言つて、その繪の方に體を寄せて、抱かれやうとした。他の繪は喜ばぬが、二、三日續ても同じ週間朝日の表紙の女の繪を喜んだ。目の比較的大きな多少間の拔けた顏を色の如何に拘らず喜ぶことが判りそれが母親に似てゐる樣であつた。」(子供の發達心理と云ふ觀察の結果を報告されてゐます。これは未だ繪と現實とか未分化の狀態でありますが、十ヶ月頃から、繪を見て片言混りに動物の名を指したり、彩色に興味をもち始めたり、一枚の寫眞の中に多勢の顏の中から父の顏を識別したりして、大體この頃から事實と繪の區別が判つて來る樣に多くの觀察の結果が示してゐます。

お話は既に生後八ヶ月の嬰兒に話すことが出來ると云は

れますが、それは指話であります。五本の指を使つて、これ（拇指）はパパ、これ（人差指）はママ、これ（中指）は兄ちやん、これ（藥指）は姉ちやん、これ（小指）は私、と云ふ風なお話で、精々兩手の指を向ひ合せて「誰さんと誰さんが今日は」とお辭儀さす程度のものであります。この外、簡單な會話によるもの、又は光と陰から成立つてゐる鮮明な寫眞や影繪を示して、話のヤマが一つ位の簡單なものであります。然しこの時期に最も一般的な世界共通と言へるものはベットタイム・ストオリー（寢物語）でありませう。赤坊が日常近しく交渉をもつ經驗範圍での、お父さん、お母さん、なごの人物、ワンワンやニャーニャーなごの動物、ブーブー、チリンチリンなごの音を用ひて、言葉のくりかへし、リズミカルな話の運びが大切なものであります。日本固有の子守歌はリズミカルなお話の代表のものと言へませう。

「柴が折戸の賤ヶ家に、翁と媼が住ひけり翁は山に薪とり、媼は川に衣あらひ、日毎日毎の世渡りもいと淺ましき淺熊山いと忙しき五十鈴川……」

「ワン　ワンがワン　ワン　ワンといつてあつちから來ました。ニャー　ニャーがニャー　ニャーと云ひ乍らこつちから來ました。ワンワンがワン　ワン　ワン、ニャー　ニャーがニャー　ニャー　ニャーつて、ワン　ワンとニャー　ニャーがお角力をとりました。ワン　ニャー　ワンニャー　ワンニャーつて、そう、うらのお池へジャブンと落ちました。おしまひ。」（蘆谷氏童話學による）。

以上の嬰兒期から次の幼兒期にかけては極めて自動反射的な、云はゞ、本能的な生活であります。

二、幼兒前期。經驗が追々と增すと共に外界からの刺戟と自分の反應運動の間に觀念が生れて來て、それまでの樣に單なる本能的運動でなく、運動が制御される樣になつて來ます。二歲頃では遊びも斷片的な遊戲活動が重なつてゆくもので、一時間の遊びは四乃至十種位の遊戲活動が見られるのであります。三歲頃からは見るもの、きくものの模倣には變形の形をとる樣になります。この時期又、嬰兒期の後半から引つゞいて、段々と見るものに觸れたり、これを摑んだりする欲望を起す樣になります。繪本の繪も初め摑まうと試みます。現實と描かれたものと區別が出來ないのであります。繪の中の人物の動作を無意識に眞似たり、裸かの幼兒の繪に着物をきせることを要求したり、驚にさらはれる羊の仔の繪を見て、大急ぎでその仔羊を被つたり、する樣なことが、二、三歲の頃に多く見うけられるのであります。この樣な反應は追々と失くなつて來て、繪は繪として見る樣になつて來ます。

實物を平面に描き現した繪は、手で觸れたり、取り上げたり出來ず、唯眺めるだけしか許されぬことを知る樣になつて來ます。見たものによつて、それが運動として反射的に反應することがなくなり、見て心の中で考へる樣に變化します。繪を見て實物を考へる樣になり、具體的から抽象的な考へと飛躍する大切な時期でありませう。知的活動が伴ひ、やうやく積極的に外に向つて働きかけやうとして來ます。繪本を見ても、お話をきくにしても、自分の知つてゐる範圍の經驗、事實的興味が中心で想像は未だ、極めて少いのであります。

知つてゐる言葉の數も、滿二歳で平均約二七〇倍位、三歳で八〇〇倍位のもので、大體この頃から一つにまとまつた話に聽き入る樣になり、自分も意味が前後整つた話をすることが出來る樣になり、泣かないで言葉で以て自分がほしいもの、したいこと、感情を言ふことが出來る樣になります。

三、幼兒後期。四歳から六、七歳迄のこの時期に入ると幼兒の經驗は急速に擴大して、肉體的の發育、知的伸展も伴ひ、知つてゐる言葉の類も平均二千位に飛躍します。想像力が、活潑になり、その想像も、最初は自分の經驗以上に出來ないものですが、徐々に經驗以上のものに迄、發展して、他のものゝ話にもよく聽き入ることが出來る樣になります。

この時期の初め頃から、幼兒にとつては言葉と同樣表現の一つの手段である描畫が現れます。これは目的のない、自分の頭の中にあるものが手の動きとなつて表現され、自分の知つてゐるものが象徵的に描き出されます。これは錯畫、(なぐり描き、搔畫)の形式に初まります。滿二歳頃から、鉛筆やクレォンの樣なもので、譯のわからないなぐり描きを初めます。これは知能の高低によつて、この時期に入る遲速があるとされてゐますが、勿論周圍の教育、環境も影響します。波多野いそ子氏の長男は、「十ヶ月目、(攫つて立てる頃)に鉛筆でクレォンペーパーの上に叩きつける樣に幾つかの點を描いた。これから滿一ヶ年迄の間にたゞ打ちつける點から、弱い線と點の交りとなり、線がやゝ强くなり、右又は左からと、一方的に描かれてゐたのが、前後左右と手を往復さして描く、と云ふ風に發展してゐる」と報告されてゐますが、錯畫はかう云ふ風に、直線——直線と曲線の交り——曲線と云ふ風に發展します。これはまだ幼兒が「繪を描かう」と云ふ自分からの考へが全然ない時で、たゞ鉛筆をもつて此の上になぐりつける事に、面白さを感じてゐる——運動の快感——ものゝ樣です。これと續いて次の段階に入ります。又波多野氏の觀察を引用してみますと、「さて、一年三ヶ月の終りからとも角も彼は圖式段

階に分類さるべき繪を描き初めたのである。即ち見た目には同じ錯畫であつても、之には命名があり、又說明されゝば、成程と思はれる所のある繪を描くに至つてゐるが、それには一歲頃からみることを急に悅び出した繪本の影響もあることであらう。」

即ち錯畫は依然として、錯畫ではあるが、自分の經驗範圍の何ものかの連りのあるものを描かうと努力して來るのです。大人から見てワケのわからぬ樣な形にも、一つ一つちやんとした意味があり、聞けばそれに對する答は明快に得られるのであります。これから圖式段階と名付けられる段階に入ります、この時期に描かれるものは一枚の畫の中に描かれたものであつてもその間には何の連絡、關係も統一もないものであります。

波多野氏の長男の描いた對象を大別してみると、

（一歲三ヶ月—四ヶ月）　鳥、犬、猫など自分の身近くの遊びの對象である動物。

（一歲五ヶ月—七ヶ月）　人物が加はる。

（一歲八ヶ月—十ヶ月）　人の動作を描かうとする。

（一歲十一ヶ月—二歲）　人物が顏らしく、人らしくなつてくる。

（二歲一ヶ月—二歲四ヶ月）　物に對する細かい觀察と身邊の細々したもの。

（二歲四ヶ月—）　イ、過去の體驗を描かうとする。

ロ、ものを知つてゐる通り描かうと努力する。

之を見ると心に印象されたもの、珍らしいものが題材となり、新しい見聞、經驗がその經路を發達させてゐる事が見出されてをり、森口多里氏もその娘について觀察した結果について——「Y子は何か新しい事實に打つつかり、興味を以て印象された時、その描く畫の內容が飛躍した」と言つてをられます。

これが進んで模樣形式となり、寫生は未だ消化しきれない狀態で、事物の印象を一度自分の頭の中の觀念によつてまとめて象徵的な表現で描くのであります。徐々に繪としてはまとまりを見せる樣になり、その描く內容は空想的、主觀的なものであります。

以上で大體學齡前迄の幼兒の特徵を繪を中心にまとめてみましたが、次に現在ごの樣な繪本がよまれ、その內容がごの樣なものかに就いて考察を進めてみませう。

現在發行されてゐる幼兒向きの繪本はその種類も樣々で、その數に至つては莫大なものでありませう。次々に眼先の變つたもの、新しいものが發行され、先づ現在の狀態は「惡質は良質を驅逐する」の法則通りの現象を示してゐるといつて差支へないのではありますまいか。我國では月刊の繪本、繪雜誌が多數發行され、他に單行本形式に多くの

ものが出版されてゐます。月刊形式の繪雜誌の現れたのは明治の半頃で年々その數を增加し、內容、形式に種々なものが出る樣になりました。その競爭の結果は、子供の目を惹くことに集中せられ敎育的にも餘り考へられてない樣な赤本が多く流布された樣です。大正十年に「コドモノクニ」がこの樣な狀態の中に子供の世界を理解し、把握しやうと努める童畫家、童話、童謠作家によつて、藝術的にも高い雰圍氣をもつて現れました。その後「コドモアサヒ」「コドモノヒカリ」「コドモノテンチ」「エホン」などが系統を同じくするものとして現れ、「子供の友」などの獨特の性格をもつたものもあります。

明治以前にも古くから、子供のための繪本は存在してゐて、日本固有のお伽話である桃太郎、猿かに合戰、カチカチ山、花咲爺、浦島、金時などがお伽草子として發行されてをり、その他英雄物語、怪奇もの、おごけ双紙、謎々合せ、孝子物語、敎訓ものなどが多く出され、それらは繪に說明が入つてゐて親が子供によみきかせたものでせう。お伽ものなどにしても、現在の同種のものと比べてみても、繪など反つて味ひの深く面白く見られるものであります。これらは最近、藤澤衞彥先生の手によつて代表的なものが複刻された樣です。

私が手許に材料として蒐めたものは、中島敎授の手によつてなされた玩具の研究（本誌に昨年發表の際）、現に幼兒によつて讀まれてゐるものとして報告された約百種餘りを出來るだけ忠實に蒐集し、之に現在發行されてゐるものを及ぶ限り手に入れたのであります。大體現在市場にあるもの、種類は揃へられたと思ひます。之を次の樣に分類してみました。

---

イ、童畫繪本
ロ、生活描寫繪本
ハ、擬人化繪本
ニ、乘物繪本
ホ、動物繪本
ヘ、軍事繪本
ト、オ伽繪本
チ、觀察繪本
リ、學習繪本（雜誌形式）
ヌ、立體繪本
ル、漫畫繪本

一、生活漫畫　二、冒險探偸漫畫
三、擬人化漫畫　四、武者修行漫畫
五、映畫漫畫　六、敎材漫畫

---

イ。童畫繪本――繪を中心にして、童謠、童話（二頁、三十行平均位）が一流の童話、童謠作家、童畫家によつて構成され、子供の凡ゆる生活分野にその材料を採つて、編輯されてゐるもの。（一）高い藝術は自然童心的雰圍氣をもつものと（二）教育的、科學的傾向に重點ををくものと、二種ある。

（一）「コドモノクニ」、「コドモノテンチ」、「コドモノヒカリ」、「エホン」等。

（二）「子供の友」「コドモアサヒ」「コドモノクニ」の最近號等。

ロ。生活描寫繪本――子供の日常生活の種々相をさらへて中心としたもので歴史的取材なども含まれる。「四、五歳の子供」「六歳の子供」「七、八歳の子供」「ニコニココドモ」「オトモダチ」等。

ハ。擬人化繪本――動物、昆蟲、小鳥、花などを擬人化して活躍せしめるものを內容とする。「オトギノクニ」「コドモノウタ」等。

ニ。乘物繪本――乘物に取材して編輯したもの。

（一）綜合的なもの、「乘物畫報」「ノリモノ」「世界ノノリモノ」「ノリモノブック」等。

（二）特定のもの、「汽車」「汽船」「ヒコーキ」「自動車」等。

ホ。動物繪本――動物のみを主題としたもの。「ドウブツ畫報」「ドウブツ」「ドウブツ園」等。

ヘ。軍事繪本――軍人、軍事、戰爭、軍器車などを主題としたもの。

「我ガ陸軍」「ヘイタイサン」「日本ノ海軍」等。

ト。オ伽話繪本――我國固有の傳說、オ伽話を取材したもの。これには赤本形式の粗雜なものが多い。

「一寸法師」「カチカチ山」「桃太郎」「浦島太郎」「花咲爺」「雀ノオ宿」「舌キリ雀」「サルカニ合戰」「金太郎サン」等。

チ。觀察繪本――一つの主題を以て編輯し、一册〳〵によつて連絡ある、まとまつた知識を種々なる方向から觀察させ、會得せしめるもの。教育的立場に立つもので、正確な考證、細部まで良心的で、形、色彩もリアリスティックなもの。「キンダーブック」

リ。學習繪本――學習的な補導に主眼ををいたもので、繪本と云ふよりどちらかと云へば、雜誌形式のもの。「幼年知識」「男子幼稚園」「女子幼稚園」「小學一年生」

ヌ。立體繪本――幼稚ながらも、繪本の立體效果を狙つたもの。

「動クエホン」

ル。漫畫――最近非常な勢で、雜誌の內容の一部分から發展して、單行本の氾濫にまでなつて、子供に迎へられてゐる。大低繪とその說明によつて物語が運ばれ、

笑ひ話、ユーモア、ウイット、ギャグを默綴して、映畫の影響もこれに加はつてゐる。あくどいくすぐりの內容のものが多く、その會話などは童心と緣遠い流行語的傾向のものが多い。

一、生活漫畫――割合上品な自然なユーモアと子供の生活にふれたウイットに富み、繪そのものもよく、童心を巧みに表現したもの。

「オサルノコヅツミ」「ザウノメガネ」や、傾向は異るが、新聞上で評判のいゝ江戸ッ子健ちやん、「フクチャン」など。

二、冒險探偵漫畫――多分に空想的飛躍的な、又映畫的な色彩をおびるが、子供の生活にふれたもの。

「スピード流線太郎」、「長靴三勇士」

「ダン吉王樣」、「探偵ガムチャン」等。

三、擬人化漫畫――動物を擬人化して、活躍せしめるもの。

「ノラクロ・シリーズ」その模倣多し。

四、武者修行漫畫――これは古い形式の漫畫で、講談本的に取材した英雄豪傑、又はその類型の創造人物の武者修行、遍歷形式のもの

五、映畫漫畫――　映畫のスター、ミッキーマウス、ベティさん等を主人公にしたもの。

六、教材漫畫――教科書の內容を漫畫形式に消化したもの。

「漫畫の理科」「マンガ讀本」等。

次にこれらの內容の分析を幼兒の生活と關聯させつゝ考察し、更にその後に實際子供についての實驗による考察を進めてゆきたいと思ひます。

（未完）

---

（一〇頁より續く）

し」の幼蟲は泥の中へ潛り込みます。泥の中で圓い部屋を造つて、そこで蛹になるのです。蛹はクリーム色をした蠟細工の樣に美しいものです。今頃池等に居る「がむし」は此の樣な蛹から羽化して出て來た新「がむし」です。此の新しい「がむし」こそ、秋の間に食物をたつぷり攝つて、次に來る嚴しい冬に堪へ得るものなのです。